

治療を受ける患者さまへ

抗がん薬の点滴には

① 末梢静脈からの点滴と②中心静脈からの点滴（ポートという器具を使用します）があります。

末梢静脈からの点滴は通常の点滴のように腕の静脈に留置針を留置し行いますが細い血管に点滴するので血管が刺激を受けやすく薬剤によっては血管痛といった痛みを伴うことがあります。化学療法で使用する薬は血管外へ漏れると、その部分の皮膚が赤く腫れたり、ただれたりする可能性があります。安全に治療を受けていただくために、患者様にも治療中に注意していただきたい点がいくつかありますので、ご協力ください。

<治療中・治療後>

- ☆ 点滴している部位の違和感や痛みを感じた場合、すぐに看護師へお知らせください。
- ☆ トイレに行きたいときや、身体を動かしたいときは看護師へお知らせください
- ☆ 点滴終了後は針を抜いた部位を 2～3 分しっかりと押さえてください

- 点滴したあとの腕が痛い
- 血管の周りが腫れてきた
- 腕が痛くて着替えや荷物をもつのが辛い
- 点滴した腕の血管のひきつれや瘢痕がある
- 点滴を始める前に何度も刺し直しをされる

上記のような場合は CV ポート造設を検討されると思いますので主治医や看護師へご相談ください。

※「ポート」とは中心静脈から薬の点滴を行うために用いる器具の一つでカテーテルは血管内に挿入され、本体は皮膚の下に埋め込まれます※



外来化学療法センター スタッフ一同